

# 人生の転機

Turning point



ティーズブレイン社長  
竹下仁

Takeshita Hiroshi



3つの節目——。経営者として歩む私には3つの大きな出来事がありました。

1つ目が社会人としての基礎を学んだ時期です。私は大学卒業後、塗料メーカー、総合スポーツ用品販売開発会社を経て、明豊ファシリティワークスに入社しました。同社は今では東証一部上場企業ですが、私が入社した1990年はまだベンチャー企業。私は5人目の社員でした。

当時の私は仕事に欲もモチベーションもなかった。ダメ人間でした。そんな私に喝を入れてくれたのが、当時社長だった坂田さんでした。坂田さんは

自身の傍でビジネスマナーや人としての姿勢、仕事のイロハを私に教えてくれたのです。

この職場で初めて今の仕事にも通じるオフィス移転に関するプロジェクトマネジメント（PM）を学びました。企業のオフィスづくりから設備工事までを担うPMの仕事の面白さと奥深さを学ぶことができました。

2つ目が独立です。2003年明豊ファシリティワークス取締役就任し、PM部門の責任者だった私にとって思い出に残っているプロジェクトが日本IBM副社長だった倉重英樹さんがプライスウォーターハウズ会长時にオフィス移転を計画し、そのお手伝いをしたことです。

「テーブルの形、ケーブル配線の色など全てに興味がある」——。オフィスづくりが企業の成長、社員のやる気につながることを早くから感じていた倉重さんとの仕事を通じ、オフィスづくりの楽しさを感じました。プロジェクトを終え、自分なりに将来を考えて独立を決意。

辞めるときに坂田さんから言われた「君の良いところは素直なところだ」という言葉。経営者になっても大事にしています。

そして3つ目が生死の境を彷徨ったこと。10年の独立から約5年後、突如意識を失い、倒れたのです。致死率も高い難病で

したが、家族の支えもあり、奇跡的に一命をとりとめました。嬉しかったのは社員が踏ん張って会社を守ってくれていたこと。

コロナ禍でオフィスへの考え方が変わってきていますが、「働く人」が最大のパフォー

## 3つの節目



病気で倒れてから5カ月後に行われた会社設立5周年記念のときの竹下社長(中央)

マンスを發揮するという視点を基点にしたオフィスづくりを提案するのが当社の強み。この考えは3つの出来事を通じて学んだものでもあります。専門知識を持った社員と今後も企業の成長のお役に立ちたいと思っています。